

# 保育かながわ

発行所  
 横浜市中区山下町1番地  
 シルクセンタービル3階  
 325A号室  
 一般社団法人  
 神奈川県保育会  
 発行人  
 山本 昇  
 題字  
 故内山岩太郎筆

## 「子どもが幸福で健やかに成長できる 神奈川の実現に向けて」

神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部長

松谷 順子



新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、そうした状況に拍車をかけています。

こうした中、国は、「こどもや若者が自分らしく成長できる社会を目指す」ため、子ども政策を総合的に推進するための「こども基本法」と、政策推進の新たな司令塔となる「こども家庭庁」を、今年4月にスタートさせることとしました。

一般社団法人神奈川県保育会の皆様には、日ごろから神奈川の子どもたちや子育て家庭への支援にご尽力を賜るとともに、本県の保育行政の推進に多大なお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、近年、核家族化や、地域のつながりの希薄化に伴い、子育ての悩みや不安を相談できる相手が身近にいないことなどが課題となつています。また、児童虐待の増加や子どもの貧困など子どもを取り巻く環境は厳しさを増し、

子どもが生きる力、「保護者が育てる力」、「社会全体が支える力」の充実強化を図り、子ども目線で必要な施策を講じることで、すべての子どもに笑いがあふれ、幸福で健やかに成長できる社会の実現を目指し、様々な子ども施策の検討を進めています。

また、「保護者が育てる力」を発揮するためには、「保護者目線」で共働き世帯の増加等を背景に増え続ける保育ニーズに、しっかりと応えていくことが重要です。

県はこれまで、市町村と協力しながら保育所等の整備を進め、保育の受け皿確保に努めてまいりましたところ、本県の昨年4月1日時点での保育所等待機児童数は220人と、過去最少を更新しました。しかしながら、待機児童の解消には至っておらず、保育所等を利用する児童の数は右肩上がりが増加しており、今後待機児童の解消に向けて、保育ニーズを見極めながら、市町村とともに取り組んでまいります。

また、子どもが幸福で健やかに成長できる環境づくりを実現するためには、子どもたちやその保護者を支える保育士の皆様の力が不可欠です。県では、国家戦略特区を活用した県独自の地域限定保育士試験を実施し、新規に保育士資格の取得を目指す方々に

機会を提供するほか、処遇改善につながるキャリアアップ研修を実施し、現役の保育士の方々を支援しています。また、「かながわ保育士・保育所支援センター」を活用した潜在保育士の現場復帰支援等により、保育士の確保にも取り組んでいるところです。

子どもを取り巻く環境が厳しさを増す中、日々、子どもたちやその保護者と接し、子どもたちの健やかな成長に尽力されている保育士の皆さまに改めてお礼を申し上げます。県としては、今後も、保育の現場を支えておられる皆様や市町村等と協力しながら、子ども子育て支援の取組みを着実に進めてまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人神奈川県保育会のさらなる御発展と、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

# 就任のご挨拶



神奈川県保育会会員園の皆様、日頃より、本会の活動にご尽力いただき感謝いたします。

本年度4月に本会理事会において、理事長に拝命されました。秦野市やまゆりこども園の山本昇と申します。

神奈川県保育会は、設立より50年以上、神奈川県の保育の質の向上に寄与してまいりました。

ここ10年を振り返りますと、待機児童が社会問題となり、その頃から、ニュースやメディアに保育園の話題が多く取り上げられるようになったと覚えております。

現在は、施設数も増加し、待機児童対策におきましては、減少傾向にあります。

保育の質の向上の取り組みにつきましては、キャリアアップ研修等の研修を実施しておりますが、今後は、保育士の人間性と専門性が向上する研修も開催したいと考えております。

保育現場ではたらく先生方は、まじめで優しい方ばかりで、多様な保育ニーズに対応するため、日々一所懸命に務めていただいております。業務量が多く、効率化等も求められておりますが、日々の業務を効率的にこなしていく事が一番ではなく、原点に立ち返り、一番大切なことは「こどもの命を守ること」その上で、こどもの健全な育ちを守ってゆく、ということをお忘れなく、ようにしたいと思います。

新米理事長ではございますが、会員の皆様のご意見をお聞きし、神奈川県の子どものため、一生懸命努めてまいります。

# 第五十五回

# 神奈川県保育事業大会



令和四年四月二十三日(土)に伊勢原市民文化会館・大ホールにて第五十五回・神奈川県保育事業大会が行われました。主題『すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして』と題し、平成二十七年より本格的にスタートした子ども・子育て支援新制度より、神奈川県では、三つの力「子どもが生きる力」「保護者が育てる力」「社会が支える力」を地域全体で充実強化させていくために、

本大会は、制度改革を的確にとらえ、保育の社会的意義と役割、保育実践などについて議論を深め今後の保育の質の向上に寄与することを目的に開催されました。

総務予算対策部富田副部長の司会進行のもと、初めに、宮田副理事長より挨拶があり式典が始まりました。

続いて、全員で『花のおさなご』を斉唱し、児童憲章を保育士会副会長・岩崎佳子氏(横須賀市・太田和こども園)が朗読を行いました。

続いて、萩原理事長より、主催者挨拶がありました。コロナ禍、神奈川県をはじめ開催市、保育士養成校より多くのご来賓を迎えることができた大会を開催できたことに感謝の言葉が述べられました。また、十年に涉り携わってきた当会の理事長をこの大会をもって辞し、引き継ぐことが

述べられました。

そして、永年勤続者の方々へ祝辞が述べられました。

最後に、今後の在り方として、当会の組織として、県保育会と保育士会の統合を図り新しい取り組み・組織となることが伝えられました。



〈大原第二保育園 加藤氏〉

次に、三十四名の永年勤続者表彰者が発表され、代表として、保育士・加藤由佳氏(伊勢原市・大原第二保育園)と調理師・永井みどり氏(横須賀市・しらかばこども園)が登壇され表彰・授与となりました。受賞者を代表して加藤氏より感謝と今後の決意が述べられ

ました。  
続いて、神奈川県保育賞受賞者が発表され、参加者代表として二川園絵氏(横須賀市・長井婦人会)も園が登壇し表彰されました。



〈伊勢原市長 高山松太郎氏〉

続いて、神奈川県福祉子どもみらい局より子どもみらい部部长・松谷順子氏、神奈川県児童福祉審議会より委員長・松田良昭氏、神奈川県町村会より山北町長・湯川裕司氏、開催市より伊勢原市長の高山松太郎氏、神奈川県保育士養成施設協会より小田原短期大学学長・吉田眞理氏と多くのご来賓の方々よりご祝辞をいただき、今後の保育会へ

の期待が述べられました。  
最後に、保育士会菊池会長より閉会のことばが述べられ終了となりました。

引き続き、保育会・保育士会総会が行われました。

初めに、萩原理事長の挨拶より、県保育会と保育士会の統合について、ICT化が進む中、今後の保育現場の書式の在り方等、当会の今後の取組についての話がありました。

議長選出により議長を萩原理事長に移して行われました。事務局より、会計報告と監事より、監事監査報告が行われました。

コロナ禍、事業が行えないものもあったこと、保育士会を保育会の部会とし統合を図ること、また、会計においても統合に合わせ単式から複式簿記へ移すこと等の説明がありました。

会員の承認を受け、引き続き役員交代にあたり新理事長と理事の紹介がされました。

そして、神奈川県保育会理事長として長きにわたり取り

組みに尽力いただいた萩原理事長へ、感謝の意を込め、山本新理事長より、会を代表して花束の贈呈を行い会員の感謝の拍手と共に終了しました。



〈萩原前理事長〉

### 研究発表

午後より、二つのテーマに沿った研究の発表が行われました。

始めに、「新たな時代の保育実践くすべての子どもにむけて」という研究テーマに沿って、綾瀬市吉岡保育園の先生方より、「未来の時代を生き

抜くための力を育てるく自然から得る学び」の研究発表がありました。

綾瀬市の概況の後、吉岡保育園では自然豊かな環境を活かして自然あそびに力をいれていることから、自然遊びを通して「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」への取り組み、それに伴って「非認知能力」がどのように育まれているのかを具体的に検証し考察することにより、保育士は何をすべきか、子どもたちにどう関わっていくべきかを改めて考え、保育の充実を図ることも目的において研究をすすめられた旨の説明がありました。

具体的には、「土と水に触れるく泥だんごづくり」「草花に触れるくたんぼぼ見つけたよ!」「生命との関わりくダンゴムシを育てよう!」の3つの活動を実践され、それぞれその活動の中で見られた子どもたちの実際の姿を、10の姿のカテゴリーに沿って整理し視覚化されたことで、足りない部分が明確になって次の活

動に取り入れることができ、子どもたちの育ちや学びの理解が深まったようです。また活動は吉岡保育園にとどまらず、全市(公私含めて)で取り組まれたということで、自園とは違う発見や気づき、学びがあり、研究が深まったのではないのでしょうか。



〈綾瀬市 吉岡保育園〉

子どもの生活については、1日を通した生活という視点からご家庭にアンケートを実施し、その結果から親子への保育所の役割を考え「親子デー」を開催した実践についての発表もありました。他者

と関わることを苦手に感じている保護者方も、この体験はためになったといってくださっているとのことでした。発表で使われた写真からは、

子どもたちが活き活きと楽しんで活動している様子が感じられました。また、今回は自然からの学びに対する気づきから、園での今後の取り組みに「子どもたちの未来の自然環境を守る事」をあげられており、これはどちらの園でも実践できる、一番大切なことのように感じました。



〔寒川町 保育士会〕

次に「地域の子育て家庭への支援の充実に向けて」とい

う研究テーマに沿って、寒川 3 園保育士会保育内容研究の先生方より、「私たちにできる子育て支援」の研究発表がありました。

寒川町の概況から始まり、家族形態の変化や、子育てをめぐる環境の変化がある中、園庭開放ではカバーできない、しかし保育園だからこそできる子育て支援はないかと考えられた、地域の未就園児の親子へのさまざまアプローチの紹介へと続きました。

具体的には、これまでも行っていた園庭開放、園舎見学、一時預かり保育に加えて「園行事へのお誘い」や季節に応じた企画を行う「保育園であそぼう」、「まかせて会員(子育て援助活動支援事業)に向けての研修講師」、様々な悩みを気軽に相談できる窓口「ぽっぽサポート同援ジャー」等です。中でも、「保育園であそぼう」では、どろんこあそびや感触遊び、あかちゃんルーム(0歳児対象)、お店屋さんごっこ等を行い、活動の度に参加者にアンケ

ートをお願いし、その結果から子どもや保護者の反応が分かり、新たな気づきがあったり、保育士の地域の子育て支援への意識の大きな変化が見られたそうです。

このコロナ禍で、積極的に地域と関わっていくことには、たいへんなご苦労があったのではないかと思います。先生方がまとめて「いつでもどこでも相談できる仕組み作り」やリフレッシュする場の提供」が子育て家庭への支援の充実につながるとありました。それぞれの地域の実情やニーズにあった方法を、地域で生活されている方も一緒に考え、地域と共に築いていけるとよいのではと思っていました。

両発表とも、発表後には、活発な質疑応答が行われ、会場にいらした皆さんの関心の高さが感じられました。こちらの発表も、関東ブロック大会にすすみました。2 市町の先生方、ありがとうございました。

## 県・市町児童福祉主管課長と 県保育会との連絡協議会



〔丸山浩二参事官〕

二氏をお迎えしてこれからの国の取り組みについて基調講演をお願いしておりますが、運営に携わる者としてしっかりと受け止め運営に生かして参りたい。」と思いを述べられました。

続いて主催者挨拶として県保育会山本理事長より「限られた時間ではありますが、実りある連絡協議会にしたい。」と述べられました。

次に、出席者の自己紹介があり、司会進行を山本理事長に代わり、第一部・議題・基調講演へと進みました。

令和四年九月十二日(月)、横浜のホテルプラムにて県・市町児童福祉主管課長と県保育会委員との連絡協議会が行われました。県保育会相馬理事の司会進行のもと、県保育会宮田副理事長の開会挨拶では、「新年度新理事長のもと早半年が経ち、七月に開催予定であったがコロナの影響で九月の開催となり、行政の方々には議会等ご多忙の中、御参加頂いたことに深く感謝いたします。この度、内閣府子ども子育て本部参事官・丸山浩二氏をお迎えしてこれからの国の取り組みについて基調講演をお願いしておりますが、運営に携わる者としてしっかりと受け止め運営に生かして参りたい。」と思いを述べられました。

続いて主催者挨拶として県保育会山本理事長より「限られた時間ではありますが、実りある連絡協議会にしたい。」と述べられました。

次に、出席者の自己紹介があり、司会進行を山本理事長に代わり、第一部・議題・基調講演へと進みました。

基調講演として「子ども家庭庁の概要について」「令和四年十月施行処遇改善Ⅲが公定価格に組み入れられるが、推進の基本的取り組みとその考え方について」と題し、内閣府子ども子育て本部子ども子育て担当丸山浩二参事官からご講義いただきました。

まず初めに、一週間前に静岡で起きた通園バスに園児置き去りした痛ましい事故があったことに触れ、亡くなられたお子様とご家族に対しお悔やみし、二年連続で同じような事故が起きてしまったことに、二度とこのような事故を起こさないためにどうしていかなければならないか考えていかなければならないと話され、九月九日(金)には内閣総理大臣より内閣府特命担当大臣子ども政策担当少子化担当小倉大臣に指示があり各市町村に通園バスのある施設に対し緊急点検をお願いすることになったのでご理解ご協力を頂きたいとお話されました。

本題のことも家庭庁の概要について、二十年前から子育て支援を全国的に盛り上げていこうと取り組んでいるが、歯止めがかけられない少子化という時代背景の中、待機児童数は減少傾向にはあるものの就業率、共働き、就学前保育希望数は上昇傾向の為、今後も注視していかなければならない。今内閣府子ども子育て本部、厚生労働省子ども家

庭局、文部科学省初等中等教育局、三つに分かれている役所を束ねて、子ども政策を協力的協働的に進めていくべきではないかと議論があった中、「経済財政運営と改革の基本方針2021」(抜粋)が令和三年六月閣議決定され、年齢による切れ目や省庁間の縦割りを排し、子どもの視点に立つて各ライフステージに応じた切れ目のない対応、子どもへの支援が向け落ちることのないような行政組織を創設するため早急に着手する。子ども政策の推進に関わる有識者会議の意見を踏まえつつ、子ども真ん中社会の実現に向けた強い司令塔機能を持った、総理を長とする内閣府の外局として一元的・一体的に抜け落ちる事の無いように取り組む、子ども家庭庁を創設することが一二月に閣議決定された。一つにまとまることで利便性が高まり、当事者視点・現場感覚をもって、すべての子どもに対し隙間の無い支援・対応、育ちの格差是正に向け、地方自治体と取り組んでいくとしている。

次に公定価格の考え方について、職種別平均賃金から保育士

と全産業との差が五万円程度あることから賃上げ効果が継続される取り組みとして、処遇改善として、月3%程度の引き上げ措置を二月から「補助金」として行っている。十月からは公定価格として従来の処遇改善と同様「加算」として位置づけられ、対象者や要件の仕組みは九月以前と同様、十月に改めて加算認定の必要はないとのことでした。



その後の意見交換会では、県保育会からの二つの設問について、行政の考え方を話し合いいただきました。

一つ目は、少子化・ピークアウトを迎えるにあたって、行政の対策についてです。行政からは「担当の課ではなく、市全体として取り組んでいく問題であ

る。」「子ども食堂等の居場所づくりを行っている。」「支援が必要なお子様に対する支援の実施。」「若者へのサポートや結婚支援の実施。」「補助金や施設整備の実施。」等各市で取り組んでいる内容をお話しいただきました。このことを踏まえ、県保育会委員からは「地域による格差が出てきているのではないか。」という意見が出され、県は「各市町村の現状を踏まえ、連携をしていきたい。」とのことでした。また、ある市では「第二子の無償化を行っている関係で保育園離れが懸念されている。」という意見もありました。

二つ目は、人材確保・離職防止についてです。これに対して行政からは「就職相談会の実施。」「大学との連携強化。」「臨床心理士等による巡回相談の実施。」「大学教員によるケースカンファレンス会議の実施。」「保育体験の実施。」等をお話しいただきました。他にも「各市でも取り組みを行っているが、就職相談会から就職に繋がりにくい。」「市としての魅力をもっとアピールしていく必要がある。」という意



〈県次世代育成課〉

最後に富田相談役から「私達が気になっている事を丁寧に説明していただき、ありがとうございます。保育の現場で起きている様々な問題に対して対策を早急に考えていく必要がある。行政の皆様のお力を借りながら、子どもたちの為に引き続き努力していきたい。」とお話がありました。

第一部終了後、新型コロナウイルス対策を実施しながら、第二部の情報交換・懇親会が行われ、閉会となりました。

見もありました。

二つの設問を通して県からは「今日あがった意見を課内で共有し、今後の対応をしっかりと考えていきたい。」とのことでした。

# 保育の日前夜祭 ホテルプラム



〈保育賞受賞者〉

令和四年十二月一日(木)ホテルプラムにおいて、三年ぶりとる第四十三回「保育の日前夜祭」が開催されました。当日は、長年にわたり、子ども達の育成に多大の貢献をなされた令和二〜四年度までの受賞者の皆様をお招きし、県行政、保育関係者が一堂に会してお祝いをしました。また、日頃より保育の現場にて子ども達の成長を支えている皆様の労をねぎらい今後とも保育事業のより一層の進展に資することを確認しました。

宮田副理事長の「開会のことば」に続き、山本理事長より受賞者の皆様にお祝いの言葉が

述べられました。

☆ 神奈川県保育賞

令和二年度受賞者

厚木市(厚木ふじの花保育園)

朝倉 眞弓様 (愛歩保育園)

小島 ゆき子様 三浦市(上宮田小羊保育園) 今代美様愛川町(愛川町立中津保育園) 早川

り様 横須賀市(しらかばこども園) 山村 一恵様

令和三年度受賞者

横須賀市(長井婦人会こども園)

二川 園絵様 厚木市(かねだチャイルド園) 八代 貴代美様

令和四年度受賞者

秦野市(みどり保育園) 石井 智子様 三浦市(三崎二葉保育園)

岩崎 郁様 厚木市(かねだチャイルド園) 小嶋 真規子様

愛川町(愛川町立半原保育園) 田口 玲子様

☆ 叙勲

令和二年度受賞者

逗子市(桜山保育園) 清水 美緒様 小田原市(小田原乳児園)

渡邊 澄江様 平塚市(しらさぎ保育園) 森蔭 敏子様

令和四年度受賞者

横須賀市(元三和こども園) 安藤 多津子様 伊勢原市(比々

多保育園) 佐藤 千津子様 小田原市(元上府中保育園) 藤森 眞弓様

☆ 厚生労働大臣表彰

令和二年度受賞者

藤沢市(二葉保育園) 金野 直美様 三浦市(上宮田小羊保育園) 戸倉 恵子様

令和三年度受賞者

愛川町(愛川町立高峰保育園) 和田 操様

☆ 全国保育協議会会長表彰

令和二年度受賞者

伊勢原市(リスブラン保育園) 三好 玲子様 座間市(座間市立ちぐさ保育園) 坂井 香様

(座間市立緑ヶ丘保育園) 石谷 優子様 (座間市立ひばりが丘保育園) 吉村 恭子様 (座間市立相武台保育園) 山口 真弓様 横須賀市(三和こども園) 松本 美津江様

令和三年度受賞者

鎌倉市(鎌倉市立深沢保育園) 武浪 美穂様 座間市(わかば

保育園) 平牧子様 愛川町(愛川町立春日台保育園) 小西 美津枝様 小田原市(山王保育園)

小川 理恵様 横須賀市(和順こども園) 渡部 昌子様 伊勢原市(伊勢原市立高部屋愛育保育園) 田中 久美子様

令和四年度受賞者

横須賀市(玉成保育園) 廣田 有希様 伊勢原市(大原第二保育園) 萩原 美千代様 愛川町(愛川町立田代保育園)

神田 あおい様 座間市(座間市立相模が丘東保育園) 井上 美香様 小田原市(山王保育園) 相川 京子様 (下府中保育園) 村下 洋子様

以上の皆様方受賞おめでとうございませす。心よりお祝い申し上げます。受賞者の方々からは受賞の喜びや現場の子ども達への思い等が伝わるご挨拶をいただきました。ご臨席いただいた、神奈川県社会福祉協議会篠原会長、神奈川県社会福祉夫人懇話会中川会長、保育士養成施設協会吉田会長、神奈川県ゆりの会貝塚会長からもお祝いや励ましの言葉をいただきました。





〈厚生労働大臣表彰〉



〈叙勲〉



〈全保協 会長表彰〉



〈全保協 特別感謝状〉



〈アトラクション〉



〈富田相談役〉



〈保育のつどい〉

式典後に行われたアトラクションでは、今村 正彦氏、斉藤 京子氏、小笠原 貞宗氏によるコンサートが行われ、童謡やオペラを含む計十曲が披露されました。会場からも大きな拍手が起き、とても楽しい時間でした。今村氏から「富田相談役、萩原顧問をはじめ、多くの方にお世話になっております。また、このような素敵な場に来て光栄です。」との挨拶がありました。

懇親会は富田相談役の「世の中辛いだけ仕事はない。自分がどれだけ頑張るかだと思ふ。保育士ほど素敵な仕事は他にない。だからこそ誇りを持つて明日からも子どもたちの為に努めて欲しい。」というお言葉の後、乾杯のご発声で和やかに始まり、温かい雰囲気の中、参加者同士での親交を深めることができ、終焉を惜しまれる中、萩原顧問のお言葉をもって閉会しました。

令和四年十二月三日(土) 神奈川県立音楽堂にて、第五十八回「神奈川県保育のつどい」が開催されました。県立音楽堂にて、養成校の学生を招いての開催は三年ぶりとなります。本年度の受賞者8名。当日は、黒岩知事も出席し、保育賞にふさわしい、華やかな贈呈式となりました。

# 保育のつどい

# 保育士キャリアアップ研修

令和四年八月三十一日(水)  
日本丸研修センターにて、神奈川県保育会主催の保育士キャリアアップ研修が開催されました。

「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」

講師 十文字学園女子大学  
人間生活学部 健康栄養学科  
准教授 林 典子氏



保育所におけるアレルギー対応ガイドラインは、学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドラインに続き平成23年に完成しました。

食事の原則としては、正しい診断に基づいた必要最小限の除去が原則であるそうです。

しかし、食物アレルギーの発症予防の為に妊娠中授乳中の母親の食物除去をする事や食物アレルギーの発症予防を目的に離乳食の開始を遅らせる事は、推奨されていません。

離乳食の進め方は、開始や進行を遅らせない、湿疹がある場合は早期に湿疹を改善させてから授乳・離乳の支援ガイドを基に離乳食を開始して欲しいとのことで、アレルギーがある時は、必ず専門医を受診して欲しいという事です。

乳児期は、各世代の中でアレルギー率が一番高く、子どもが初めて食べる食物は家庭で安全に食べられる事を確認してから保育所での提供を行う事が大切になるそうです。

最後に、命の危険に繋がったアナフィラキシーショックについて、調布市の小学校の給食の事例を聞きました。亡くなったお子さんが、アナフィラキシーショックを起こす事を周知

の大人が解っていてもこの事故は起こってしまいました。アレルギー給食の誤食原因である、職員(保育士・調理士・保護者)、給食管理、喫食時管理の徹底・見直しを改めて行う必要を深く感じました。また、エビペンは医療を受けるまでに命を繋ぐものであるという講師の言葉も重く心に響きました。

本研修で、私たち保育士が、かけがえのない子どもを命を守る重責を担っている事を改めて自覚し、それを自園の職員と共有し、マンパワーの連携で誤食を防いで行きたいと強く思いました。



◇神奈川県保育会の広報誌『保育かながわ』は、赤い羽根共同募金の助成金で発行しています。

## 神奈川県保育会定時総会のお知らせ

3月総会 令和5年3月10日(金) 15時より 日本丸訓練センター 第1・2会議室にて  
4月総会 令和5年4月22日(土) 11時より 平塚市中央公民館 大ホールにて